

中部E S D拠点運営委員会（第13回）議事メモ

日 時 平成20年11月26日（木）19時00分～20時30分

場 所 中部大学名古屋キャンパス（810号室）

出席者 竹内委員長、千頭副委員長、寺井、竹峰（高山委員の代理）の各委員

オブザーバー 武者小路、羽後、黒岩

事務局 古澤、岡本、永田

議 事

1. 第2回中部E S D拠点総会での「今後の活動計画」について

事務局より、第2回中部E S D拠点総会(11月29日(土))で示される「今後の活動計画」のたたき台が提出され、そのたたき台を基に「今後の活動計画」の最終稿に向けて種々意見交換を行った結果、一部表現を修正（「監視」→モニタリング、「参事」→「参与」、「再度イベント」→「サイドイベント」）の上、最終稿を以下のようにすることとした。

【今後の活動計画】

本年1月14日の発足会において策定された「当面の活動方針」に則り、今後1年間で以下の活動計画を実施する。

（当面の活動方針：2008年1月14日策定）

1. 諸団体のE S D活動及び団体間のE S Dに関わる情報の交換を支援する
2. 「出会い親しむ→互いに学びあう→地域をデザインする→協働して実践する」という段階的プロセスを実践する
3. 伊勢・三河湾流域圏の持続可能性を考える
4. 上流・下流及び流域間のつながりを重視する
5. 2010年の生物多様性条約締約国会議（COP10）の成功に貢献する
6. 多様な問題・テーマを取り扱う
7. さまざまなセクターの協働を重視する

○「伊勢・三河湾流域圏プロジェクト」の実施（フラッグシップ・プロジェクト）

1) 「庄内川流域圏データベース構築プロジェクト」（モデル事業）

- ①庄内川流域圏に着目した、持続可能な地域づくりのための調査・研究・提案活動
- ②庄内川流域圏に関係する長良川流域圏や矢作川流域圏のE S D的活動（大学、NPO・NGO、自治体）の先進事例調査

これらの調査・研究で収集・編集した情報を基に、『庄内川流域圏E S Dまちづくりブック(仮名)』の編集を開始する。『庄内川ブック』は行政、市民団体等が共通認識を持つデータベースとして、または学校等が使用できる「E S D教材」として、さらには政策提案を行う時の根拠として使用できるものを前提に開発する。また、データベースは各活動主体のネットワーク形成・合意形成支援として電子データとして公開し、いつ誰でもWEB上で情報を活用できるようなものを開発する。

2) 「伊勢・三河湾流域圏(伊勢・三河湾へ注ぎ込む河川の流域圏)に関わるE S D的活動の包括的調査」

「伊勢・三河湾プロジェクト」に関わるE S D的活動(大学、NPO・NGO、自治体)の包括的な事例発掘調査・先進事例調査・基礎調査、また協議会に参加している団体及び会員によって行われているE S D的活動のさらなる推進を行う。この調査で収集したデータは、WEB情報データベースの拡張型として公開することを目指す。

○ 「伊勢湾再生行動計画」のモニタリングと連携事業

- ・「持続可能な伊勢湾域政策研究会」を進行させ、既存政策や流域圏各地の実態調査をふまえて、沿岸域圏総合政策のビジョンを提案する。
- ・2007年3月に策定された「伊勢湾再生行動計画」をモニタリングし、見直し・改善の努力を支援する。また、連携の可能性を模索する。
- ・地域発で始まっている流域圏再生の活動や取り組みを具体的に調査し、「伊勢湾再生行動計画」が謳う「多様な主体との連携と協働」の促進を図る。

○ 生物多様性COP10への貢献事業

- ・東海・中部で動き始めている生物多様性COP10関係NGO組織と連携する。
- ・生物多様性条約第10回締約国会議支援実行委員会の参与として協力する。
- ・生物多様性COP10に関心を持つ世界のE S D地域拠点と情報交換し、連携プロジェクトを立ち上げる。また、会期中(2010年10月)のサイドイベントを検討する。

○ 伊勢・三河湾流域圏マイナス80計画

- ・「持続可能な未来のための価値と原則」(地球憲章)の共有化を図る。
- ・流域圏内カーボン・オフセットなど地域資源の活用や生活・仕事スタイルの変革のための手法を、広範な市民・事業者の参加の下で実証・評価を通じて開発する。
- ・「流域圏インベントリ」を作成する。
- ・地域におけるエネルギー・資源利用効率の極大化を目指す。

2. 第2回中部E S D拠点総会での「活動報告」について

事務局より、第2回中部E S D拠点総会で示される「活動報告」の資料が提出され、種々意見交換の結果、以下のような資料を用意することとした。

- 〔資料1〕 中部ESD拠点発足会の実施 2008年1月14日
- 〔資料2〕 Toolbox Development (ホームページ作成の報告)
- 〔資料3〕 第1回国内RCE実務担当者会議
- 〔資料4〕 地域におけるESDの取り組みと課題～中部地域からの発信～
- 〔資料5〕 アジアESD・RCE若者会議 in 仙台 報告書
- 〔資料6〕 RCE－ESDの世界会議に出席して
- 〔資料7〕 RCE Conference of the Asia-Pacific (23-25 October in Tongyeong City, Korea)
- 〔資料8〕 中部ESD拠点運営委員会開催回数・議事一覧
- 〔資料9〕 後援名義承認事業一覧
- 〔資料10〕 中部ESD拠点 ロゴマーク公募実施報告

3. 「キャンパスマネー構想の推進」について

竹内委員長から、愛知県環境活動推進課が推進している「キャンパスマネー構想の推進」の事業内容（EXPOエコマネーの大学キャンパスでの推進）の説明があり、中部ESD拠点に参加している大学とこの事業との今後の関わり方について種々意見交換の結果、中部ESD拠点として何らかの形で協力していくことを確認した。

4. 今後の協議会及び運営委員会等の運営体制について

今後の協議会及び運営委員会等の運営体制について、提案された委員長案を元に、前回（第12回運営委員会）に引き続き、以下のような種々意見交換を行った。

(1) 市民推進会議の名称変更、性格、役割について

- ・市民推進会議では、前回（第12回）の委員長提案が市民推進会議の構成員に受け入れられ、市民推進会議の名称を「中部ESD拠点推進会議」（以下「推進会議」）に変更し、協議会の個人の受け皿としての性格をはっきりさせる（具体的には、「推進会議」では、中部ESD拠点協議会（以下「協議会」）参加団体の構成員、個人会員を初め協議会の目的に賛同する個人の会員により、構成する）ことが合意された。（武者小路氏）
- ・「推進会議」は、個人がまとまって活動したい時若しくは協議会の大きな意味でのボランティアサポーターとして機能する、個人の緩やかなネットワーク組織。協議会の団体会員、個人会員に「推進会議」に加入することは要請するが、加入は絶対ではない。協議会の「唯一」の個人ネットワーク組織ではなく、「有力」な個人ネットワーク組織である。現在の市民推進会議もそのような性格のつもりだが、運営委員会との連携をより強化していく。（武者小路氏、羽後氏、黒岩氏）
- ・「推進会議」は「唯一」の個人ネットワーク組織ではないので、協議会の全ての事業に関わるわけではない。例えば、協議会のある事業に関わりたい個人がいれば、その事業に精通している参加団体に入っていたいただければいい（羽後氏）。

(2) 協議会の個人会員募集について

- ・個人会員を募集することで、協議会への参加の仕方のオプションが増える。しかし運営上は

かなり大変になる（千頭副委員長）。

- ・今後「推進会議」に参加したがるであろう個人に対し、協議会の個人会員に誘っていいのか悪いのか？ 協議会としてのビジョンがないからどのくらいの規模のネットワークを協議会が想定しているのかよくわからない。（黒岩）
- ・個人会員と団体会員の権利、つまり議決権等の1票の重さをどう捉えるべきか（古澤事務局員）
- ・個人会員と団体会員の権利の問題はもう少し議論が必要。個人会員の募集を11月29日の総会から無理に始めることはない。（羽後氏）

(3) 運営委員会の機能強化について

- ・運営委員会の強化の議論と個人会員募集の議論は切り離した方がよい。（千頭副委員長）
- ・団体以外から選出する運営委員は、〇〇担当として、運営委員会が必要と感じお願いするエキスパートから選出することにしては。（千頭副委員長）

上記について種々意見交換の結果、以下のように措置することとした。

◎ 個人会員募集の件は、今回は見送る。

◎ 協議会における「推進会議」の位置づけとしては、協議会の大きな意味でのボランティアサポーターとして機能する個人の緩やかなネットワーク組織と理解し、運営委員会と協力を強める。ただし、協議会の「唯一」の個人ネットワーク組織ではなく、「有力」な個人ネットワーク組織である。

◎ 運営委員会委員に現運営委員会の構成員に加え、企画担当として羽後静子氏、国際協働担当として武者小路公秀氏、企業担当として黒岩恵氏が加わる案を、総会に提出することとした。

以 上